

# 教育という医療支援が その地に根付き、 未来を築く力を育てる

国際センター 特任教授 内藤 毅（ないとう たけし）

6月25日〜29日、日本経済新聞の夕刊に徳島大学特任教授 眼科 内藤毅先生の海外での医療支援活動を紹介する記事が掲載されました。5回にわたり連載された記事には内藤先生が眼科医を志すきっかけとなった子供時代の思い出や、1984年、新設されたネパールの大学付属病院で眼科の立ち上げに関わり、現地の白内障患者の治療のためのアイキャンプ（移動眼科クリニック）を行う様子も紹介されています。現在も各国で治療や人材育成に力を注ぐ内藤先生。9月中旬、モンゴルに続きネパールから帰国された際に海外での活動の様子や今後の展望についてお話を伺いました。



—先日までモンゴルに行っていたらっしゃったそうですね。

**内藤先生** そうです。モンゴルには徳島大学の留学生がいたこともあって、モンゴルの医学部からの要請があったときに時々行っています。海外は年10回くらい行くんですが、ネパールでのJAICA草の根プロジェクトが主で、その他モザンビークとエジプトでの活動を行っています。—現地ではどのような活動をされているんですか？

**内藤先生** モザンビークはアイキャンプが主体。年1回の小さなプロジェクトですが、その1回でほしい200人くらいの白内障手術を行います。エジプトは留学生のフォローアップ。徳島大学に2人、留学生

が来ていて、私の下で働いていたので、エジプトに帰ってどんな仕事をしているか、毎年見に行っています。—毎年ですか？手厚いフォローですね。

**内藤先生** 医療を学ぶために日本に来て、法律上、医療行為はできないんです。だから私が現地に行くと、自立するまで教えます。—随分、時間がかかりそうですが…。

**内藤先生** そうでもないですよ。眼科の手術に硝子体手術というのがありますが、エジプトに戻ってすぐ、彼らは硝子体手術の器械を揃えました。私が初めて行った時は、3日間で30人手術しました。この30人という数は、徳島大学で1カ月間に手術する人の数。1年

目は私がほとんどやりましたが、2年目になると半分くらいは彼らができるようになって、3年目には8割、4年目はほとんど全部自分たちでできるようになりました。医療は技術移転。そういう風に教育しないと意味がないと思っています。—海外では不便を感じることもやご苦労されることも多いのではないのでしょうか。

いますから。プロジェクトを始める際に、国によって事情も違うのでまずは情報収集を行います。現地に行って直に物を見ないと、人から聞いた情報やネットの情報なんかは当てにならない。情報収集自体、困難を極めることもありまして、自分で感触を確かめないと、—下見の時、どういうところに着目していらっしゃるんですか？

**内藤先生** まずは相手を知ること。例えばネパールだと、私たちの相手となるのは知り合いの人たちですが、モザンビークは共産圏。個人的な付き合いがないので、国

家が対象になるわけです。そうすると国家がどれだけ国民のことを考えているか、私たちがやろうとしているプロジェクトが現地のニーズに合っているかどうかを見極めます。—現地のニーズはどうやって見つけるんですか？

**内藤先生** 現地の声を聞くことで、すぐに見つかります。私はいつも「自分たちの国をどうしたい？」って聞くんです。彼らは自分たちの国をどうにかしたいから、日本の技術や知識を医療レ

ベルの発展のために役立てようとしている。プロジェクトの遂行には現地何が必要か、現地の人はどうしたいかといった具体的な将来展望が何より重要で、持続的に発展していけるかどうか、自立できるかどうかは短期・長期的なビジョンがあるかどうかにかかっています。—明確な将来展望をもつことで、実現性が高まるんですね。

**内藤先生** ネパールは識字率が6割前後。学校に行き始めても、子供たちは労働力になってしまい、結局はドロップアウトしていきんです。モザンビークも同じ。戸籍も

い人もたくさんいます。歳を聞いたら「100歳」と答える若者もいる。—彼らは「夢」ってことをあまり考えたことがないんですよ。要するにそれくらい日常生活が厳しい。毎日食べていくのに必死。そういう状況の改善策として、とにかく手術をたくさんやればいいのか、物を与えればいいのか、考える人もいますが、それが発展的に使われたかどうかは誰も判定できない。

—アフリカでは医療行為も行いつつ、教えてもいますが、教育という医療支援はなかなか難しい。教育は種をまくのと同じで、その地に根付いていくもの。それを発展させるのは、私たちではなく、現地の人の努力によるものです。プロジェクトの終わりが幕切れとなるのではなく、新たな発展へとつながる支援となるよう、常にイメージしながら活動しています。—最後に今後の予定をお聞かせください。

**内藤先生** JAICAのプロジェクトが最終年度を迎えているので、それをどう終わらせるか、次のプロジェクトをやるかどうか思案中です。ちょっと休みたいんだけど、ムリかな（笑）。



写真上の建物はネパールの病院。現地での医療支援の様子。



日本経済新聞の夕刊に掲載された新聞記事。